

「GIST における succinate dehydrogenase の異常を解析する後向き観察研究」
情報公開文書

患者さんへ

「GIST（消化管間葉系腫瘍）におけるコハク酸脱水素酵素
の異常を解析する後向き観察研究」

についてのご説明

2018年11月05日 第1版作成

札幌医科大学

1. はじめに

GIST（消化管間葉系腫瘍）は胃や腸に発生する腫瘍で、胃がんの1/10程度とまれな病気です。GISTは出血を起こして見つかることや、他の目的で撮影したCTなどで偶然見つかることが多く、GISTと診断されると手術で切除する場合があります。GISTの一部で、コハク酸脱水素酵素（SDH）という酵素やその遺伝子に異常が見つかることがあり、SDHに異常があるGISTは様々な特徴を有することが報告されています。今回の研究は、当院に保管されているGISTの切除材料を用いて、SDHの異常を調べるものです。

2. 対象となる患者さん

2005年10月1日から2018年10月31日までの期間に札幌医科大学附属病院において手術を受けられたGISTの患者さんを対象とします。

3. この研究の内容

当院に保管している切除標本の一部を頂き、GISTにおいてSDHBというタンパクが正常に出ているかどうかを、免疫染色という方法で調べます。SDHBがみられない場合は、SDHに関連する遺伝子（*SDHA*, *SDHB*, *SDHC*, *SDHD*）の異常を解析します。研究は札幌医科大学消化器内科学講座で行います。なお、この研究を行うことで患者さんに費用などの負担は生じません。

4. 個人情報の取扱いについて

本研究では個人情報の保護のため、個人を特定できる情報は収集せず、データの数字化やデータファイルの暗号化などの厳格な対策を取っています。また、本研究の結果を公表（学会や論文等）する際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

5. この研究に診療データを提供したくない場合の措置について

2005年10月1日から2018年10月31日までの期間に札幌医科大学附属病院において手術を受けられたGISTの患者さんの中で、この研究に診療情報を提供したくない方は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

あなたに関わる研究結果は破棄され、診療録などもそれ以降は研究目的に用いられることはありません。ただしご連絡を頂いた時点で、すでに研究結果が論文に公表されている場合や、研究データの解析が終了している場合には、解析結果等からあなたに関するデータを取り除くことができず、研究参加を取りやめることができなくなります。

6. 研究期間について

病院長の承認日から2019年12月31日までの期間を予定しています。

7. 予定症例数

およそ50例分の解析を予定しています。

8. 利用する情報

カルテ情報（年齢、性別、病理所見、再発の有無、CTや内視鏡などの画像）

9. 医学上の貢献

免疫染色という簡単な方法でSDHに異常があるGISTを拾い上げられ、かつSDHの状態によりGISTの悪性度や抗がん剤の効き方が異なることが分かれば、GISTの診療においてSDHの検査が役立つ可能性があります。

10. 問い合わせ先

研究責任者 札幌医科大学 消化器内科学講座 講師 山下 健太郎

連絡先

電話：011-611-2111（代表）

消化器内科 教室 内線 32110：平日 9～17時

消化器内科 病棟 内線 32180：夜間及び休日